

こらっせ便り

2022年12月23日



【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL : 045-353-9008、 eメール : info@korasse-kanagawa.org

Web サイト : <http://korasse-kanagawa.org/>

来年も With コロナでできる活動を！

福島子ども・こらっせ神奈川事務局長 遠野はるひ

過ぎゆくとしていた 2022 年は、みなさまにとってどんな年でしたでしょうか。こらっせにとっては、従来の応援プログラムやリフレッシュプログラムが実施できない状況下で、With コロナで多様なプログラムを試みた挑戦的な年でした。

夏には裏磐梯の檜原湖で日帰りリフレッシュプログラム、春と夏にはユースのスタディツアーを実施しました。子どもたちと接触する前には、ワクチン接種の確認、1 週間前から体調管理、直前の抗原検査など感染に気をつけました。また、神奈川の子どもたちを山北で学び・遊んでもらう「山北プロジェクト」の準備もはじめ、6 月のユース山北研修など何回かの山北訪問をおこない、2 回の講演会と省庁交渉を通じて、子どもの健康や人権について考えを深めました。2023 年も With コロナの状況にあわせながら、できることをしていきたいと思います。例年のように 1 月にオンライン講演会、3 月にユースの応援・スタディツアー、夏に山北でのリフレッシュプログラム、年末に省庁交渉を予定しています。これらのプログラムに加え、春と秋に「山北プロジェクト」、子どもたちの健康を守るためにさらに突っ込んだ複数回の省庁交渉が実現できればと話しています。

来年 1 月 29 日（日）は、福島市で子ども・若者の包括的なプログラムを実施している「ビーンズふくしま」のスタッフで子ども食堂「よしいだキッチン」代表・江藤大裕さんをお迎えし、オンライン講演会を開催します。江藤さんとは、今年のスタディツアー、リフレッシュプログラムを通じて知り合いになり、「福島市子ども食堂 NET」を立ち上げるなど、そのパワフルな活動に圧倒されました。皆様も江藤さんからきっと元気をもらえらると思います。

来年も「こらっせ」へのご支援をよろしくお願いいたします。

「3.11 子ども甲状腺がん裁判」 始まる

こらっせも傍聴に参加

世界最悪の福島原発事故から早くも 11 年が経とうとしています。近年、事故当時 18 歳未満であった福島の子どもの中で、被曝が原因と考えられる甲状腺がん患者が 338 名も明らかになっています。

2022 年 5 月 26 日に始まった裁判は、小児甲状腺がんを発症した若者ら 6 名（現在 1 名増）の勇気ある必死の訴えによって法廷で闘われています。この中学生から大学生の若者達は、甲状腺の摘出手術を受けた後も再発や肺への転移などを病み、辛いアイソトープ治療を受けた高校生もいます。アイソトープ治療とは、隔離した病室で高濃度の放射性ヨウ素を自ら飲み、残った癌細胞を破壊するという非常に過酷な治療なのです。

第一回裁判では小法廷のわずか 27 席しかない傍聴席に 226 名もの人々が駆けつけました。その熱い応援が裁判官の心情を動かし、小法廷を大法廷に部屋替えをさせ、さらに原告の意見陳述の打ち切り予定を撤回させて、全員の訴えを聞くことに変更をさせました。11 月 9 日に開かれた第 3 回目の裁判には「こらっせ」のメンバーが東京地裁に応援に駆けつけました。

「いのち・神奈川」が 5 省庁に要望

12 月 13 日に県内の保養グループ「いのち・神奈川」の仲間と共に「省庁交渉」を行いました。

5 省庁（経産省・文科省・厚生労働省、環境省・復興庁）9 人が対応、「いのち・神奈川」は 13 人参加しました（こらっせは 5 人）。

今回は崎山比早子氏（医学博士、元国会事故調理事、甲状腺がん子ども基金理事）、松本のり子氏（郡山市、元避難者）、阿部知子議員、山崎誠議員などの応援があり迫力のある充実した議論が展開されました。



私たちは、「ふくしまっ子自然体験事業等の実績と予算」、「子ども達の健康状態」、「大人と子供達の事故前と事故後のがんや心疾患の発症数」、「福島県内外の事故当時 18 歳以下の甲状腺がんの発症数」などに関する資料のほか、福島県内の子ども達の甲状腺がんの検診や実情についても要望しました。

しかし、環境庁からは詳細なデータが出されず、厚労省と環境庁の甲状腺がんの数値に違いがあるなど誠意のある回答とは言えませんでした。

各団体からは「チェルノブイリの初期被曝検査数は 35 万人、日本はたったの 1080 人、それもずさんな検査だった。被曝と甲状腺がんの因果関係がないというのはあまりに国は無責任」、「ウクライナやベラルーシでは、25 年間検診を継続し 3 週間の長期保養も国がやっている」など多くの意見が出されました。

「いのち・神奈川」として後日「抗議文」を提出、改めてテーマを絞って省庁交渉を行うことにしています。(錦織順子)

生活クラブ生協神奈川主催 「東日本大震災・復興まつり」に参加

小春日和となった 11 月 12 日(土)、みなとみらい臨港パーク公園で、「ともに生きよう！2022—被災地と神奈川でたすけあう関係づくり」をテーマに開かれる第 9 回「東日本大震災・復興まつり」への参加依頼をもらい、事務局 2 人、こらっせユース(大学生) 4 人で参加しました。



宮城県、福島県を中心にした生産者団体の美味しい物産など合計 89 団体

が集いました。互いの活動紹介や交流などで、つながりを深め、励まし合いながら、ともに生きる未来をつくる発信の場になっていたと思います。ステージイベントでは大震災を機にゴスペラーズの北山陽一さんが発起人で設立したアカペラ団体「Always with smile」など、若い世代のパフォーマンスが躍動していました。

私たちは、2022 年に行った福島リフレッシュプログラム、山北プロジェクト、福島市、飯舘村、楢葉町へのスタディツアー等のパネル展示や報告書を通して参加者と交流しました。(藤井あや子)

シニア、初冬の山北を訪問

シニアメンバー7人が12月7、8日両日、山北を訪ねました。来年のリフレッシュプログラムの下見と親睦を兼ねての訪問です。参加者は代表の山際さんなど7人です。

2台の車に分乗して最初に訪れたのは「とれたて山ちゃん」。ここで早くもお土産や野菜を買う人も。続いて訪ねたのは洒水の瀧。酒の字から棒を一本抜いた字を用います。高低差があって素晴らしい瀧でした。この瀧には来たことがないという人が多かったのは意外でした。

近くの「みっちゃん食堂」で昼食して、午後はまず河村城址公園へ。戦国時代の山城で山のでこぼこした地形をうまく活用して敵に攻められないようにつくられています。今回は車で行きましたが、山北駅の裏から簡単に登ることができます。



山小屋のような箒沢荘

このあと丹沢登山入口となっているビジターセンターに立ち寄り、宿泊先の「箒沢荘」へ。ここ



はリフレッシュプログラムの際の宿泊先の候補となっています。登山者を受け入れる宿泊先なのでアットホームな感じですが、大正時代に建てられ、その後の改修を経て民宿となったそうです。まきストーブもあり、山小屋の雰囲気にも満足感を得た人も多かったと思います。手作りの夕食を食

べ今後のこらっせの行方などを議論しました。

2日目は、「箒沢荘」のバーベキュー場や息子さん宅にあるモンゴルの遊牧民の家屋（ゲル）などの説明を受けました。

抜けるような青空で気分爽快。丹沢湖にあるダムを訪れました。治水や発電の勉強の題材にもなるかもしれません。最後は、山北駅近くのカフェ「haz（ハズ）」に立ち寄り、カレーライスを食べながら町会議員の清水明さんと懇談しました。

